

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム 2021年度事業実施内容とその評価

	事業	中長期計画の 数値目標 (評価指標)等	2021年度当初事業計画	2021年度実施内容	コンソーシアムの評価
目標Ⅰ 各大学間の連携の推進					
課題① 教育の質の保証・向上 (授業内容等の改善)	共同FD (ファカルティ・ディベロブメント)	年延べ30名以上の参加	「第2回Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」を実施する。 その他、共同ファカルティ・ディベロブメントを企画し実施する (オンラインの活用を含む)。 <年延べ30名以上の参加>	「第2回Oxford EMI Course 千代田区キャンパスコンソ」 8月27日から9月3日までオンラインで開催した。オクスフォードEMI講師陣と連携し、千代田区キャンパスコンソ以外からも参加を募る公開プログラムとして位置づけた。千代田区キャンパスコンソから11名、コンソ以外から10名の教員が参加した。 「第22回法政大学FDワークショップ」(コンソ共催) 「DX化する教育活動を支援していくために」をテーマとして9月3日にオンラインで開催した。教職員86名が参加した。 「ICTを用いた遠隔授業の事例紹介と改善へ向けた取り組み」(FD・SD研修会) 10月27日にオンラインで開催し、教職員87名が参加した。 「FDセミナー—法政大学における数理・データサイエンス・AI教育の取り組み紹介—」(コンソ共催) 3月1日にオンラインで開催し、教職員約30名が参加した。	数値目標を達成できた。
課題② 教育の質の保証・向上 (教育研究活動等の適切かつ効果的な運営)	共同SD (スタッフ・ディベロブメント)	年延べ50名以上の参加	大学間職員人事交流制度を利用した取組みを展開する。 その他、共同スタッフ・ディベロブメントを企画し実施する (オンラインの活用を含む)。 <年延べ50名以上の参加>	「千代田区キャンパスコンソ特別研修職員制度による職員合同研修」 「コロナ後を見据えた教育・学生支援の取組み」「今後の大学間連携・地域連携の取組み」等をテーマとして、7月～9月の3ヶ月間を期間として実施した。職員13名が参加した。 「ICTを用いた遠隔授業の事例紹介と改善へ向けた取り組み」(FD・SD研修会) 10月27日にオンラインで開催し、教職員87名が参加した。	数値目標を達成できた。
課題③ 各大学間の学生の交流の活性化	学生共同ボランティア	年間延べ100名以上の参加	学生合同ボランティアを企画し実施する。<年間延べ100名以上参加>	学生合同ボランティア企画 (コンソ協力) オンライン・オフラインで実施したボランティア及びボランティアに関連すると位置づけた以下の取組みに合計延243名の学生が参加した。 「富士山での自然保護ボランティア」「あすチャレAcademy」「フードロスヘキサゴン～食べきること地球を手助け～」 「“衣食住について考える企画”『衣』ファストファッション沼救出作戦!」「第3弾!!「誰か」じゃなく「みんな」が生きやすい社会とは?～ダウン症のある人と巡る市ヶ谷キャンパス～」 「むすびえ子ども食堂講座」「空き家リノベ×地域再生～空き家を活かした地域再生を考えよう～」 「3.11を再考する」「HOSEI パラ五輪～きみもパラリンピアン!」	数値目標を達成できた。
課題④ 多様な学びの提供	単位互換の実施	単位互換提供科目に占める実履修科目の割合 (前年度差5%増)	単位互換科目受講者数増の施策を検討し実施する。 各大学による共同開講授業を1科目以上開講する。	単位互換 前期・春学期35名、後期・秋学期40名、合計延75名が本制度を利用して他大学の授業を受講した。対象297科目のうち学生が受講した科目数は合計延50科目であった。制度の検証・改善のために単位互換科目受講生を対象としたアンケートを行ったほか、受講学生の協力を得て制度紹介を目的として学生対象説明会をオンラインで実施した。 共同開講授業 複数大学が授業を編成・開講する共同開講授業として、「現代政策学特講Ⅰ (千代田区)」を単位互換科目の1つとして開講した。千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク (現地調査)を通じて発見・考察することを目的としたこの科目には千代田区長がゲスト講師として参加した。	単位互換制度は年々受講者が増え、安定的な制度運用のための情報を蓄積することができつつある。 共同開講授業については、計画のとおり実施できた。

目標Ⅱ 各大学と千代田区（関係団体等を含む）との連携の推進					
課題⑤ 千代田区への研究成果の還元	「千代田学」事業	年5件以上採択	「千代田学」事業を通して研究成果を還元する。＜年5件以上採択＞ 大学間で連携して行う研究成果の還元方法を検討し実施する。	<p>「千代田学」事業</p> <p>2021（令和3）年度の「千代田学事業」に、大学ごとの単独事業として4件（3大学）が、複数大学による共同提案事業として「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（1）学生版KUG（帰宅困難者支援施設運営ゲーム）の開発」（3大学・1短期大学）が採択された。</p> <p>共同提案事業については、2022（令和4）年度に「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（2）職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」が採択され、新たなテーマの研究や、それまで実施した研修の成果を発信する準備に着手した。研究活動を紹介する動画が2022年3月に千代田区のコミュニティサイトで公開された。</p> <p>共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ」 6月～11月に各大学・短期大学の13の公開講座をリレー形式で開催した。</p>	数値目標を達成できた。
課題⑥ 地域コミュニティの活性化	地域向けイベント等開催又は参画	地域住民延べ10名以上の参加	研究成果の還元などを通じた、地域コミュニティ活性化に資する事業を企画し実施し又は参画する。＜地域住民延べ10名以上の参加＞	<p>コンソーシアムが開催又は参画（主催・共催・協力・協賛・後援）する、地域向け、または、地域と連携して実施したイベントや共同公開リレー講座を開講</p> <p>オンライン・オフラインで実施した以下の事業の取組みに学生等を含め合計延867名の参加者があった。</p> <p>「千代田さくら祭り2022公式ガイドMAP」製作プロジェクト」「知らないなんてmottainai！ mottainaiを体感 食べ物も文化も知ろう」共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ」</p>	数値目標を達成できなかった。 オンラインの活用を含め、数値目標達成に向けた取組みを行う必要がある。
課題⑦ 地域の教育支援	地域向け共同公開講座等の実施	年1回以上実施	地域向けの共同公開講座等の事業を実施する。＜年1回以上実施＞ 各大学と千代田区の教育リソースの共有や教育連携を検討する。	<p>「知らないなんてmottainai！ mottainai！を体感 食べ物も文化も知ろう」オンラインイベント（コンソ共催）</p> <p>2020年8月の「お野菜mottainaiプロジェクト カブ（蕪）の葉のアレンジ料理で、葉酸を摂ろう」に続き、区在住の小学生・中学生・高校生およびその保護者等を対象としてオンラインで開催した。これに学生等を含め22名が参加した。</p> <p>共同公開リレー講座「ちよだで学ぶ」 6月～11月に各大学・短期大学の13の公開講座をリレー形式で開催した。</p>	数値目標を達成できた。 各大学と千代田区の教育リソースの共有や教育連携は継続的に検討してゆく必要がある。
目標Ⅲ 各大学と地域産業界等との連携の推進					
課題⑧ 学生による地域産業振興支援	地域産業界との連携教育プログラムの実施	年1企業以上との実施	地域の産業振興に資する事業（連携教育プログラム等）を企画し実施する。＜年1企業以上との実施＞	<p>「千代田さくら祭り2022公式ガイドMAP」製作プロジェクト</p> <p>来訪者が区内の魅力に接しながら地域を回遊できる仕掛けづくりをテーマとして、学生目線による企画・編集・ページ作成を行った。千代田区商工業連合会、法政大学学習ステーションとの連携事業として位置づけたこの地域振興事業には34名の学生が参加した。</p>	数値目標を達成できた。
目標Ⅳ 各大学と地方の大学との連携の推進					
課題⑨ 地方の大学との学生交流の活性化	相互参加型教育プログラムの実施	年1回実施	地方の大学の学生が参加する授業を単位互換科目として開講する。＜年1回実施＞	<p>単位互換制度を利用した学生交流</p> <p>沖縄県内の大学の学生とともに受講するフィールドワークの単位互換科目を2科目開講した。「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」には22名（うち沖縄県内の学生1名）、「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」には22名（同2名）の学生が受講した。</p>	数値目標を達成できた。

目標Ⅴ 千代田区キャンパスコンソの運営基盤強化（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）					
課題⑩ 積極的かつ適切な情報公開	共同IRの実施と公表	年3項目以上分析・公表	共同IR報告書を作成し公開する。＜年3項目以上分析・公表＞	「【共同IR】数字で見る千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（2021年度）」 2020年度に続き、2021年度版を2021年10月に作成・公開した。この中で、千代田区昼間人口に対する5大学・2短期大学の学生数、5大学・2短期大学全体の入学者の出身地域（出身高校所在地都道府県）と卒業生・修了者の卒業後の就職地域（都道府県）、単位互換制度の状況（科目の受講者1人あたりの受講科目数、開講科目数に占める実履修科目数・割合等）を分析した。	数値目標を達成できた。
課題⑪ 地域リスクマネジメント	災害時連携体制の検討又は事業実施	年1回以上の検討・事業実施	教育研究に対する各種リスクへの対策を検討するとともに、リスクマネジメント体制を検証し、必要に応じて改訂を行う。	リスク発生情報共有のための連絡訓練 2020年度に続き、2021年9月に「リスクマネジメント体制に関する申し合わせ」に基づきリスク発生情報共有のための連絡訓練を実施した。 新型コロナウイルス感染拡大リスク低減のための情報共有 ワクチン接種を含む、各大学における感染拡大のための対応を運営委員会の都度又はEメールにて情報共有した。	数値目標を達成できた。
課題⑫ 継続的検証体制の構築	事業取組み状況・効果の評価	①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（前年度比5%増） ②単位互換提供科目に占める実履修科目の割合（前年度差5%増）	事業取組み状況・効果について、①コンソ主催連携事業参加者の参加満足度（前年度比5%増）、②単位互換提供科目に占める実履修科目の割合（前年度差5%増）を指標として評価を行う。また、2022年度に予定されている中長期計画中間見直しを見据え事業実施結果の検証と効果的な評価が可能となるよう、必要なデータ収集等を継続的に行う。	2021年度に実施したコンソ主催連携事業7件の参加者アンケート結果から、満足度は平均91.4%であった（2020年度は87.5%（ただし対象事業数は3件））。 単位互換開講科目数に占める実履修科目の割合は、前年度差6.2%であった。開講科目数は2019年度120科目、2020年度309科目、2021年度297科目で、そのうち学生が履修した科目数は、それぞれ17科目、33科目、50科目であった。 2021年度は10件の主催事業で参加者アンケートを実施し、取組みの状況・効果の評価のためのデータ収集を行った。	参加満足度の前年度比約4.5%増であった。数値目標を約0.5ポイント達成できなかったが、9割を超える満足度を得た。 単位互換提供科目に占める実履修科目の割合は数値目標を達成できた。実履修科目数とともに延受講者数も2020年度の33名から75名に増えた。
その他の事項（千代田区キャンパスコンソが必要と認めた事項）					
千代田区キャンパスコンソの教育リソースの情報公開	社会人・地域を対象とした教育プログラム・制度の情報提供	—	—	2020年度に続き、各大学・短期大学が有する社会人・地域向けの教育プログラムや制度の共同広報をウェブサイトで実施した。	中長期計画のビジョン・目標に掲げる、社会の人材養成に対する要請への対応、マルチ・ステージ時代に対応した学び直しに資する取組みである。

千代田区の意見

2021年度も新型コロナウイルス感染の影響があったものの、感染防止対策及び事業内容に応じて実施方法の検討を行い、対面型での講座ばかりでなくハイフレックス型の授業やオンライン方式の講座を開講するなどの工夫を重ねた結果、学生や地域の参加や協力により、事業のほぼすべてにおいて数値目標の達成を実現している。
各大学間の連携推進による教職員の共同FD、SDやボランティアを通じた交流や単位互換制度など、それぞれの大学と特色を活かし質を高めたカリキュラムを学生が大学の枠を超え受講し、教養を深めることができている機会が増加している点は、本組織の利点を活かしていると考えます。また「千代田学」共同提案事業においても、災害時の帰宅困難者支援対策について多角的な視点で3年計画で研究を進めている。今後も本区での地域課題や施策について、調査研究の成果を区民に還元していただき、モデル事業となるような提案がされることを期待している。

千代田区商工業連合会の意見

2021年度は「ちよださくら2022公式ガイドMAP製作プロジェクト」に取組み、コンソーシアムの大学・短期大学の34人の学生に、千代田さくら2022ガイドMAPの特集ページ「ちよだ よりみち さんぽ」を製作してもらいました。千代田観光まちづくり実行委員会とも連携して今回初めて実施したこの取組みにより、文化資源・施設などの様々な区内の魅力を学生目線で発信するという新たな特色をガイドMAPに加えることができました。学生にとっても、企画・調査・取材・執筆・デザイン・タイムマネジメントなど、一連の製作過程を専門スタッフのアドバイスを受けながら主体的に行うことを通して、地域振興活動の実際を体験し理解する機会になったと思います。
千代田区には様々な地域資源があり、今回の「ちよださくら2022公式ガイドMAP製作プロジェクト」などの活動を通して地域の魅力に触れることができます。今後も多くの学生に地域活動に参画してもらい自らの学びに生かしてほしいと思います。また、コンソーシアムには、引き続き、千代田区商工業連合会、学生・教職員、千代田区、地域住民などが連携して、魅力ある地域づくりに資する取組みを展開していくことを期待しています。